

地域おこし協力隊

vol. 1

『横山陽子』の活動日記



今回の活動日記は、2回開催させていただいた「空家は資源」空家の活用をテーマに地域活性化セミナーのお話です。

1回目は全国古民家再生協会の河野氏より、空家を活用したカフェやゲストハウスなどの事例のお話をうかがい、そのあとはグループワークを行いました。カードに空家などに関する質問が書いてあり、その質問について意見を交換し合うグループワークでそこから空き家などに関する新しい気付き、発見を得ることができました。2回目は有間野地区にある空家4軒を参加者全員で見学しました。そのうち1軒は参加者で天井を剥がすなどの体験を行い、そのなかで梁のある素敵な空間がみつき、この空き家がまだまだ再生し活用できることがわかりました。そのような発見があるので古民家は貴重で面白いのだと思います。

天井剥がしの後は、グループにわかれて剥がした家で何ができるか考えてみました。「ありまっぷの中に自転車ロードをつくり、その中の休憩場所にするのはどうだろうか?」「松阪木綿の体験工房にしてみようだろうか?」その他にも「カフェ」「地域や移住者の交流の場にしてみようだろうか?」など、たくさんの意見があり、次につながる会となりました。

また私は、今年の1月から3月の第1・3日曜日に飯高茶屋で行われた移住&空家バンク相談会にも関わらせていただきました。その中で空家バンクに家を登録したい方や、飯南・飯高地区に移住したくて空家を探している方にも来ていただきました。ただ、空家を探している方はたくさんいらっしゃいますが、空家バンクに登録されている家は、まだまだ少ないのが現状です。空家は住まいとして探している方がほとんどですが、上記のような活用方法のベースとして探している方もいます。実は私もそのひとりです。空家には多くの課題があります。その課題のひとつで、「片付けが大変」とよく聞きます。そんな中、飯南高校の生徒さんがボランティアで空家の片づけをしたことが話題になっています。その試みは、生徒さんも家主さんも笑顔で終わることができ、空家バンクへの登録のきっかけとなりました。そんな片付けの中、空家の中にある使われなくなったものは、私から見たらまだまだ活用できる宝物のようなものもあります。今後は、そのような使われなくなったものを集めて「蚤の市」を行うなど、楽しく課題解決ができるいろいろな方法を考え、空家課題に頑張って取り組んでいきたいと思っています。

4月には、本庁にあった移住促進係が飯南産業文化センターへ移り、空家バンク事業や移住相談事業を集約させた「まつさか移住交流センター」の開設に向けて動き出します。私もそちらへ移動しますので、空家の相談やその他私に会いに(笑)ぜひお越しください。